

旅客の交通行動における時間節約に対する価値評価Ⅱ

—都市間旅客を例とした分析—

Appraisal for the time savings of passengers in their traffic activities Ⅱ

— Sample Analysis of Intercity Passengers' Time Savings —

岡 本 久
Hisashi Okamoto

【目 次】

1. はじめに
2. 交通行動における時間価値の意義
3. 時間価値論の整理と若干の考察
4. 都市間旅客の時間価値分析
5. むすび

1. はじめに

交通需要は周知の通り、基本的に2点間（出発地から目的地まで）の空間を克服し、目的地での経済・社会的活動を行うための派生的需要行動である。この需要行動において、交通利用者は必ず時間という限られた資源を消費することを余儀なくされ、その貴重な資源の消費を極力抑えようとする。

交通経済学の分野において、時間に関する経済分析が比較的其他の分野に先がけて行われ、数多くの先駆的業績が残されているのも、交通における時間に対する価値評価（以下、「時間価値評価」と称す）の重要性を物語っているものと理解される。

「時は金なり」という格言がある。人の一生（時間）は有限であるが故に、時間の大切さを論じた格言である。一般財とは異なり、時間は市場を通じて売買できない資源であるために、時間に対する価値評価を困難なものとしているが、人々の行動は無意識のうちに、自ら何らかの形で時間に対する価値評価を行いながら行動していると言える。

近年における交通利用者の所得向上に伴い、運賃負担力は増加し、各交通手段のスピードに対するニーズも年々高まっている。少しぐらい運賃料金が高くても、より早く目的地に到達可能な交通手段を選択する傾向にシフトしている点に鑑みれば、まさしく交通利用者は移動時間の短縮（節約時間）をお金で買っていることを示唆し、結果的に交通利用者の時間価値評価は年々高まっていると言われている。

本稿は、以上のような時間価値評価に関する考え方の整理と筆者が過去に実施した分析結果を踏まえ、最近の諸統計データから時間価値について実証的な分析を実施した結果の概要を紹介したものである。なお、本稿は1993年の拙稿、東京交通短期大学研究会交通論叢第34号「旅客の交通行動における時間